

極小未熟児・病的児の保育園の 入園及び受け入れについての調査

(分担研究：新生児・乳児の在宅療法と生活管理をめぐる保健指導に関する研究)

研究協力者 鬼 頭 秀 行
共同研究者 犬 飼 和 久

要 約：極小未熟児、病的新生児であった児の入園について、児を引き受ける保育園、幼稚園側及び極小未熟児を持った親にアンケートを送付し、入園についての問題点を検討した。

園側の人員不足などもあり、上記の児の受け入れが出来にくいところもあるが、大部分の保育園、幼稚園は好意をもって引き受けようと努力していることがわかった。しかし、生活面、医療面などについて、園側は医療者との間に密接な連携を持つことを望んでおり、現在よりも更に太いパイプが通せるよう医療者側も努力する必要がある。

また、国や地方公共団体は保母、教員の充実の為に人員の補充を行って戴きたい。

見出し語：保育園・幼稚園、極小未熟児・病的新生児、入園受け入れ

極小未熟児・病的新生児として出生した児が、保育園や幼稚園に入園・通園する際に問題がなかったか否かについて、児を引き受ける保育園・幼稚園及び極小未熟児を持った親にアンケートを送付し入園・通園についての問題点を検討した。

対 象：静岡県西部地区の保育園134ヵ所と浜松市立幼稚園24ヵ所の計158ヵ所と、昭和61年～63年に当院NICUへ入院し退院した極小未熟児の親123名で、アンケートの回収率は前者が

117ヵ所(74%)、後者は92名(75%)であった。

結果及び考察：極小未熟児や病的新生児であった児の受け入れは、回答のあった59%の施設で経験していた。年度毎に入園児をみると、平成1年は合計96名(極小未熟児11名、病的児85名)、平成2年は95名(極小未熟児9名、病的児86名)、平成3年は111名(極小未熟児21名、病的児90名)であり、病的児としては先天性心疾患21名、気管支喘息13名、発達遅滞12名、自

閉症11名、ダウン症10名、てんかん10名、脳性麻痺8名であった。

極小未熟児や病的新生児であった児の入園に関する問題点を表1に示す。保育園や幼稚園側では人員の不足などもあり、これらの児の受け入れが出来にくい所もあるが、大部分の保育園、幼稚園は好意的に引き受けようと努力している。園側の意見としては表2に示すものがある。受け入れに際して園側は医療者側との間で、現状ではまだまだ意思の疎通が十分でなく、密な連

絡を有することを望んでおり、講演会や研修会による専門的知識の賦与、指導を希望する施設が多く、現在よりも更に太いパイプが通せるように双方が努力する必要がある。

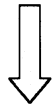
今後も超未熟児・病的新生児の救命率の向上に伴って、これらの児の保育園、幼稚園への入園の機会が増すと予測される。国や地方公共団体はこれらの児の保育充実のために、保母、教師の人員拡充と行って戴きたい。

表1 病的児などの入園に関する問題点

① 保母・教師数の不足	9施設
病的・障害児3人に1人の保母	
幼稚園では園児35人に対し1人の教師	
保母の精神的肉体的負担	
行政の援助が必要	
② 園側に病的児に対する専門的知識が不足	8施設
③ 医療機関との連絡の不十分さ	8施設
④ 食物アレルギー、アトピー性皮膚炎に対する給食の配慮	8施設
⑤ 発達遅滞児や心疾患児など、同年齢のクラスに入れた時、保育に無理がある (身体的、知的など)	6施設
⑥ 家族と園側の意思の疎通を図る(入園前に親が真実を話さないことがある)	4施設
⑦ 脳性麻痺児では入園前に市役所の福祉関係との連絡を要した	
⑧ 園内での感染を心配(伝染性疾患、HBキャリアー)	

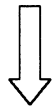
表2 園側の意見

- ① 病的児、障害児を受け入れるのには保母の増員が必要
- ② 職員増員の為の県や市の予算の配慮が必要
- ③ 特別障害児の認定がされると人的援助が得られるので障害の程度によっては申請を医療側に要望
- ④ 園にも擁護教諭や看護婦が必要
- ⑤ 公立幼稚園では障害児や病的児の受け入れについて行政側に権限があり、園側の努力には限界がある
- ⑥ 家族側と園側との意思の疎通を十分に作る



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:極小未熟児、病的新生児であった児の入園について、児を引き受ける保育園、幼稚園側及び極小未熟児を持った親にアンケートを送付し、入園についての問題点を検討した。園側の人員不足などもあり、上記の児の受け入れが出来にくいところもあるが、大部分の保育園、幼稚園は好意をもって引き受けようと努力していることがわかった。しかし、生活面、医療面などについて、園側は医療者との間に密接な連携を持つことを望んでおり、現在よりも更に太いパイプが通せるよう医療者側も努力する必要がある。また、国や地方公共団体は保母、教員の充実の為に人員の補充を行って戴きたい。